第9講　まし・めり・らし・まほし・たし・ごとし

PART1　まし

まし

接続	助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	まし		○				○	特殊型

【意味】

① **反実仮想**（もしAならばBだろうに）

A｛**せ**／「　」／「　」／「　」形｝ば　B　**まし**

※「～**せ**ば～まし」の「**せ**」は「　」の助動詞「　」の「　」形

② **ためらいの意志**（～ようかしら）

「　」＋～**まし**

③ 仮想（～ならよかった）

④ 推量（～だろう）

〈例題一〉「これになにを書かまし。」の傍線部を現代語訳せよ。

問一「居まし」の文法的説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

a　ア行上一段活用の動詞＋反実仮想の助動詞
b　ア行上一段活用の動詞＋意志の助動詞
c　ワ行上一段活用の動詞＋反実仮想の助動詞
d　ワ行上一段活用の動詞＋意志の助動詞

問二「夕の雲の誘はざらましかば、かかる所の月は見ざらましを、心ありけり」の傍線部の現代語訳として、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

a　夕べの雲に誘われるようなことがあれば、こういうきれいな月をみることもあっただろうに。
b　夕べの雲に誘われなくても、こういうきれいな月はぜひともみておかなければならない。
c　夕べの雲に誘われなかったので、夜、雨が降らず、こういうきれいな月をみることができたのだ。
d　夕べの雲が誘ってくれなかったら、こういうきれいな月をみることはなかっただろうに。

第９講　PART１　確認問題

①「命あらばそれとも見まし…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　マ行上一段活用未然形＋反実仮想の助動詞
イ　マ行上一段活用未然形＋意志の助動詞
ウ　マ行上一段活用連用形＋反実仮想の助動詞
エ　マ行上一段活用連用形＋意志の助動詞

②「同じくはよろしきほどにおはしまさましかば…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行変格活用動詞＋意志の助動詞＋反実仮想の助動詞
イ　サ行変格活用動詞＋反実仮想の助動詞＋意志の助動詞
ウ　サ行四段活用動詞＋反実仮想の助動詞
エ　サ行四段活用動詞＋意志の助動詞

③「げにかうおはせざらましかば、いかに心細からまし。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　（あなたが）いらっしゃらなかったので、とても心細く感じました
イ　（あなたが）いらっしゃらないのではないかと、非常に心細く思っていました
ウ　（あなたが）いらっしゃらなくても、心細い思いはしないでしょう
エ　（あなたが）いらっしゃらなければ、どんなに心細いことだったでしょう

④「いかにせましと思しわづらふほどに、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いかにもそうであろう
イ　もしそうできたならば
ウ　どれほどそうしたいか
エ　どうしたものだろうか

⑤「思ふこと心にかなふ身なりせば秋の別れを深く知らまし」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　人と別れるあわれを深く味わい知ることになるでしょう
イ　人と別れるあわれを深く味わい知ることになっていたでしょう
ウ　人と別れるあわれを深く味わい知ることができるでしょうが、今はそれもできません
エ　人と別れるあわれを深く味わい知らないでしょうか、いえ深く味わい知ることになりました

第９講　ＰＡＲＴ１　解答

〔例題一〕　書こうかしら

問一　c

問二　d

第９講　PART１　確認問題　解答

〔解説〕

①　上に「命あらば…」と仮定を表す表現があるので、「まし」は反実仮想の助動詞。また、「まし」は活用する語の未然形につくので、「見」はマ行上一段活用の未然形。よって、アが正解。

②　「おはしまさ」はサ行四段活用動詞「おはします」の未然形。「ましか」は反実仮想の助動詞「まし」の未然形。よって、ウが正解。

③　「ましかば〜まし」という形になっているので、反実仮想とわかる。「おはせざらましかば」は「おはせ」＋「ざら」＋「ましか」＋「ば」なので、「いらっしゃらなければ」という意味。よって、エが正解。

④　「いかに」とあるので、「まし」はためらいの意志とわかる。よって、「どうしたものだろうか」という意味になる。よって、エが正解。

⑤　傍線部中の「まし」に注目。傍線部の上の「せば」に気づけたら、「AせばBまし」の反実仮想だとわかる。「秋の別れの深さを知っているだろうに」ということは、実際は今「知らない」ということ。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　ア　②　ウ　③　エ　④　エ　⑤　ウ